

## 2章 目的と範囲の設定

このプロセスでは、評価の目標（目的）を明確にし、その目標にあった評価の範囲（ライフサイクルの範囲、データの種類、評価対象項目等）を設定します。

主な手順は以下の通りです。



### 1. 目標の設定

本手法を用いて行う評価の目標（目的）を具体的に設定して下さい。具体的に目標を設定すればするほど、評価の範囲を絞ることになり、必要な作業及び評価に必要なデータの種類が明確になります。

<目標（目的）の例>

- ・単位面積に投入される「エネルギー投入量」及び「投入資材」を明らかにする
- ・エネルギー投入量や投入資材量の大きな生産工程を明らかにする
- ・本評価方法で環境影響の大きな生産工程を明らかにする
- ・他の地域で栽培された同じ農作物と比較し、環境影響の大きな生産工程を明らかにする
- ・農作物のコストあたりの環境影響の大きさを明らかにする

### 2. 対象範囲の設定

原則的には農作物のライフサイクルを評価対象範囲に設定してください。農作物のライフサイクルは、年1回収穫を行う農作物であれば、1年間で設定して下さい。つまり、農作物に関する1年間の作業（耕起、播種、施肥、農薬散布、収穫、出荷等）及び圃場の状況（発生するガス、廃棄物等）を評価対象範囲にして下さい。なお、年2回収穫を行う農作物や同じ圃場に収穫時期が異なる農作物を栽培する場合には、栽培期間を評価対象範囲として下さい（データ収集の際に、栽培期間にて割り振りをを行います）。また、本手法では建物あるいは機械等の固定資産を対象外としています。

ただし、評価の目標（目的）にあわせて、評価対象範囲を絞ることは構いません。例えば、栽培期間のある特定の期間だけを評価する場合には、その期間を評価範囲と設定することになります。

いずれの場合にしても、設定した評価対象範囲は、「耕起～出荷」のように工程で示して下さい。なお、ライフサイクルよりも範囲を狭めた場合、その狭めた理由については明記する必要があります。また、既存の生産システムとの比較評価が目的の場合には、評価する生産システムの範囲を同じにすることが必要となります。

### 3. 評価対象項目の選定

本手法で評価対象としている環境影響項目は以下の通りです。この評価項目の中から、評価の目標（目的）にあった評価対象項目を選定して下さい。

- ①温暖化エネルギー収支 CO<sub>2</sub>
- ②温暖化土壌面収支
- ③栄養塩類：窒素濃度
- ④廃棄物：プラスチック
- ⑤農薬

なお、この他にも投入エネルギーや投入資材等、収集するデータ自身も評価対象として構いませんので、必要とあれば選定して下さい。ただし、評価結果の表示形式については、独自のものを使用して下さい（本手法では生産システムの比較を目的とした評価結果を5角形のレーダーチャートで示します）。また、その場合、他の LCA 手法の環境影響評価プロセスを使用しても構いません。

いずれにしましても、評価対象項目が評価の目標（目的）と合致している必要があります。また、評価項目の選定理由を明記する必要があります。

### 4. 収集データの決定

本手法で収集対象となるデータは以下の通りです。このデータの中から評価対象項目に関連するデータを収集データとして選定して下さい。なお、(a)投入資材、(b)投入エネルギーは必ず収集するようにして下さい。

- (a)投入資材（肥料、薬剤、エネルギーを除く）
- (b)投入エネルギー（電気、燃料）
- (c)肥料
- (d)薬剤（農薬等）
- (e)廃棄物
- (f)処理の内訳（リサイクル率等）

(g) 排ガス

なお、本手法では対象外となりますが、この他にも必要とあれば、評価の目標（目的）と合致している収集データを選定して下さい。

また、選定したデータの種類及び選定理由については明記する必要があります。